



Pierre Fauchard Academyの意義について

解説：PFA国際歯学会日本部会

I. PFAの存在理由

PFAは、『歯科医学開花への道を拓いたピエール・フォシャールの先駆的業績を讃え、その精神を継承し、相互啓発と国際的連帯のもとに、医道の高揚と研鑽をはかり、歯科医学の発展と向上を期する。』という課題を掲げて、1936年米国に於いて設立された国際組織であり、日本部会の設立は1968年であります。

II. PFAの思想

ピエール・フォシャールの思想は、2つの源流によってもたらされたことは記述により明らかですが、その1つは18世紀前半という医療の未成熟期に、歯の治療術を医学の領域に含めて歯科医学の位置づけを行ったこと。その2は、技の師弟相伝の時代にあつて彼の20年におよぶ医術経験を書物をもって公表し、歯科医学発展の基礎を確立したという史実であります。

そこに示された2つの科学からは、“医療人の崇高な人格から滲み出る同業種共存共栄のこころ”が伝わって参りますが、それは医療に携わる者に課せられた豊かな人格の形成と医療理念の習得、そして各時代の最新医術の趨勢を見極めるというPFA 3つの行動理念を作りあげております。

III. PFA・日本部会の体質

ここに掲げるPFAの思想は、日本部会の原動力そのものでありますが、それは“自己研鑽と奉仕”を旗印に各メンバーが医療担当者としての自覚を養い、そこで培われた豊かな幅広い心をもって、医療に携わるといふ重要な意義を提供しております。言い換えれば医道の本質を究めようとする歯学関係者の国際集団が、ピエール・フォシャール・アカデミーであり、またこの英知を結集して歯科医療のより良い環境作りの先導役を努めるのが、PFAのメンバーであるということになります。

—PFA日本部会・メンバーの努力目標—

1. 医人の豊かな人格形成と幅広い国際的感覚を養う。
2. PFAの思想を普及し、国家・社会の繁栄に貢献する。
3. 最新歯科医療の趨勢を見極めて常に自己研鑽に努める。
4. 歯科界・共存共栄の理念に基づき奉仕の心を実践に生かす。